

日産財団 第2回理科教育賞の選定 <講評>



選考委員長 西本清一

日産財団は、「理科教育助成」プログラムを通じて、幼・小・中学校から提案された理科教育の創意ある課題を選定し、それらの取組を支援している。また、2013年度から、2年間の実績に対する事後評価を通じて、すぐれた成果をあげた実践校を褒賞し、理科教育の Good Practice（すぐれた取組）を他校へ波及させる制度を創設した。

このたび、2011年度「理科教育助成」に採択され、2年間の取組を終えた神奈川県下12校、福岡県下7校、栃木県下4校、合計23校から提出された成果報告書による書面選考を経て、第2回理科教育賞の候補5校を選定した。これら5校による成果発表会が7月24日に開催され、最終選考の結果、下記の各賞受賞校を決定した。

【理科教育大賞(楯と副賞 100万円)1校】

福岡市立香椎東小学校: 理科教育の質の向上を目標に、全教職員が一丸となって取り組んだ結果、理科好きに変容した先生をとおして児童が理科好きに育っていく教育の好循環が生まれており、のびしろの大きな成果につながった。

【理科教育賞(楯と副賞 50万円)2校】

相模原市立麻溝小学校: 自然環境に親しむ体験学習システムの構築を目標に、「価値ある体験」を児童の育ちの観点から問い直し、カリキュラムを再編するとともに、実践の成果を全校の教育活動全体に波及させており、すぐれた取組になった。

上三川町立本郷北小学校: 「ものづくり」の体験をとおして思考力や表現力を育成し、環境に働きかける実践力の育成に繋げようとした取組において、教育効果の評価観点や指標を明確化した点が評価された。

【選考委員会特別賞(楯と副賞 20万円)2校】

福岡市小学校理科研究会: 各学年に応じた実験手順を創意工夫し、得られた結果から自然現象の仕組みを理解させる効果的な教育法を確立しており、理科教育の基盤を支える優れた取組になった。

横浜市立三保小学校: 学年ごとに環境学習の課題を設定し、自然に親しむ上での価値観を修得させる総合的な教育実践になっている。所定の成果を検証するために今後とも継続的な取組を期待したい。